

した。血清 TSH 値の平均値は 86.1 ± 55.8 ($\mu\text{U/l}$) で TSH と最も良い負の相関を示したのは F- T_3 であった。シンチグラフィーによる転移・残存病巣描出の成功群と失敗群の間では TSH 値に有意差は認められなかったが、さらに年齢、甲状腺ホルモン補充期間、または初回手術時よりの期間、転移巣の部位等により対象例をいくつかの群に分類して上記血清データとシンチグラフィーの結果との関係について検討した。

21. ^{111}In -標識白血球シンチグラフィによる炎症巣の局在診断

伊藤 和夫 塚本江利子 古舘 正從
(北大・核)
斎藤知保子 (市立札幌病院・放)

キット化されている ^{111}In -oxine を用いて、分離した全白血球を標識し、炎症巣の存在が疑われた 51 症例とその他 7 例に使用した。 ^{111}In 標識白血球の分離および標識過程が複雑なため簡便化した方法にて行った。

簡便な方法にて白血球の ^{111}In 標識率は一定の高い値が得られた。

化膿巣は 13/16 (81%), 非化膿性炎症巣を含めると 17/20 (85%) の症例に陽性描画を得ることができた。陰性例はいずれも膿瘍と診断されながらも 1 か月以上を経た慢性期の症例であった。

^{111}In -標識白血球シンチグラフィは活動性の炎症巣を明瞭に診断し得る有用な検査法として位置づけることができる。

22. 放射線増感剤の F-18 アニオンによる標識化

氏家 章 中村 護 坂本 澄彦
(東北大・放)
岩田 隼 井戸 達雄
(東北大サイクロ・RI セ)

腫瘍の低酸素性部位の陽性画像化等を目的とし、2-

nitroimidazole (NI) 誘導体の ^{18}F 化を検討した。リガンドは、 $[\text{F}^{18}]\text{-I-(2-fluoroethyl)-NI}$ とし、標識は相当するメシル体の ^{18}F アニオンによる求核置換反応により行った。炭酸カリウムとクリプテートの混合物に、 ^{18}O (p, n) ^{18}F 反応により得られるターゲット水 (生成 H^{18}F を含む) を加えた。水分を除去後、メシル体の DMSO 溶液を加え、加熱、かくはんした。反応液は、逆相高速液体クロマトグラフィーにより精査した。例えば、キャリアを加えず、メシル体 20 μmol 、炭酸カリ 10 μmol 、クリプテート 45 μmol 、ターゲット水 300 μl 、反応温度 60°C、反応時間 15 分の条件では、放射化学的収率 36% で標識体が得られた。現在、基質および各試薬の量を減らす方向で検討中であるが、アルカリの量をコントロールすることにより、反応は、好収率で再現性良く進行することが判明した。

23. エルザ CA 125 の基礎的検討

五日市典子 田中 彰子 鈴木美千子
児島 陽一 鈴木 俊彦
(盛岡赤十字病院・放)
布川 茂樹 松田 勲 (同・婦)

CA 125 は上皮性卵巣癌に特異的な腫瘍マーカーとして注目されている。今回エルザ CA 125 キット (ミドリ十字) を使用する機会を得たので報告する。健康成人 50 例 (男 10 例、女 40 例) 当院産婦人科外来、入院患者を検査対象とした。日内変動、日差変動は 5.6~14.1% の C.V. が得られ回収試験ともほぼ良好な成績が得られた。高濃度においてプロゾーン現象があるため注意が必要である。健康成人女性の $\bar{x} \pm 2 \text{ S.D.}$ は $22.4 \pm 10.2 \text{ u/ml}$ で 33 u/ml を cut off 値とした。成人女性の月経時の CA 125 が有意に高い傾向を示した。良性腫瘍の子宮内膜症性卵巣嚢腫に高い陽性率が認められ、中間群、悪性群と進むにつれ陽性率も高くなり CA 125 は卵巣腫瘍に特異的な腫瘍マーカーといえる。